

11月4回（11月20日～11月26日）商品検査実績

●微生物検査 270 検体

店舗新規商品検査において、「水産1商品」が一般生菌数において自主基準不適合となったことから、工程管理を見直して再検査を実施しました。再検査でも一般生菌数において自主基準不適合となったことから取扱いをしないこととしました。

●理化学検査 183 検体

食品添加物検査	37 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
残留農薬検査	外部検査機関に 10 検体依頼しました。検査の結果問題ありませんでした。	
簡易農薬検査	20 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
P C R 検査	畜種判別検査	今週は実施しておりません。
	GMO検査	今週は実施しておりません。
	米のDNA異種米判定	外部検査機関に 2 検体依頼しました。
	コシヒカリ品種判定	今週は実施しておりません。
米鮮度判定	2 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
卵鮮度判定	90 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アレルゲン検査	今週は実施しておりません。	
ヒスタミン検査	5 検体実施しました。検査の結果問題ありませんでした。	
アフラトキシン(カビ毒)	今週は実施しておりません。	
クドア（養殖ヒラメ寄生虫）	今週は実施しておりません。	
放射性物質検査（スペクトロメータ※①）	17 検体（米 2 検体、鶏卵 5 検体、野菜 3 検体、果物 4 検体、水産 3 検体）実施しました。全て検出下限値（約 20Bq/kg）以下となりました。	
放射性物質検査（サーベイメータ※②）	今週は実施しておりません。	

- ・ヒスタミン検査＝ヒスタミンによる食中毒は、アレルギー様食中毒の一つであり、鮮度の低下したマグロやカツオ、サバなどの赤身魚やその加工品が原因となることが多いため、検査でヒスタミンの濃度を測定します。
- ・アフラトキシン＝アスペルギルス属の一部のカビが産生するカビ毒で肝臓がんの原因の一つと考えられています。アフラトキシンが作られる最適条件は、温度 30℃前後、湿度 95%以上であるため、高温多湿の熱帯地方等が最も適しています。輸入食品の安全性に関わるため、日本では、輸入時に行う抜き取りのカビ毒検査やカビそのものが生育していないか外見上の検査を実施しています。なお、日本国内で、食品にアフラトキシン汚染が起きる可能性は低いものと考えられています。

※①NaI シンチレーションスペクトロメータ（遮蔽体付検査機器で核種を特定できるもの：ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 を測定）

※②NaI シンチレーションサーベイメータ（遮蔽体無ししやへいたいの持ち運びできる機器：ガンマ線総量を測定）

※③kcps（キロ・カウント・パー・セカンド）：1秒間に対象となるものから何回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド（放射線測定の際の測定対象以外からの放射線で宇宙線や天然の放射性物質に起因する）との差異を3以内としました。



組合員さん VOICE

組合員さんの

想いにこたえて

みなさんから寄せられた声を商品・運用にいかす取り組みをしています。

みかポン(早和果樹園)というポン酢を旅行に行った時にたまたま購入したのですが、すごくおいしかったです。みかんの味がするフルーティーなポン酢です。インターネットでも取りよせできますが単品では購入できないので是非協賛を企画して下さい。

実現しました

リクエストをいただきありがとうございます。ご要望をいただき検討した結果、12月2回にみかポン(360ml)を案内できることになりました。この商品は醤油の濃さ、お酢や果汁の酸っぱさ、これらを甘〜いみかん果汁で見事に調和させた、柔らかくてやさしい、おいしいポン酢です。鍋料理や焼き魚、サラダなど色々な料理に合いますので、ぜひお試しください。

みかポン 360ml
●53kcal・食塩相当5.6g/100g
●賞味期間:1年



今月のお知らせ 安心だより



取引先研修会

この研修会は、お取引先とならコープにおいて、品質保証の重要性を共有化し、さらなる品質管理レベルの向上を目指すために年1回実施しています。

今年度の実施内容

10月19日(水)に奈良県橿原文化会館で開催し、取引先74社から91名と、ならコープの理事、職員23名を含めた114名の参加がありました。
研修会では、アース環境サービス(株)市原睦規氏から「食の安心・安全をめぐる食品メーカーの課題 ~現場に根差した管理体制を目指して~」について講演いただき、学習を深めました。また、お取引先2社(小川珈琲(株)(株)ノースイ)から自社での安心・安全の取り組み事例の報告をいただき共有しました。今後ともいっそうの協力・協同の関係を目指してまいります。



商品検査レポート 10月に行った商品検査の結果をご案内します。

毎月の検査結果はHPにも記載しています。▶<http://www.naracoop.or.jp/goods/letter/kensadayori.html>

微生物検査	検査数	店舗新規商品検査において畜産2商品が一般生菌数において、自主基準不適合となったことから工程管理を見直し再検査を実施したところ自主基準に適合する結果となりました。								
	1,195									
理化学検査	検査数	主な検査項目	食品添加物	簡易農薬	畜種判定	残留農薬 (外部検査機関へ依頼)	精米品種判定 (外部検査機関へ依頼)	カビ毒	検査の結果、いずれも問題ありませんでした。	
	427		108	52	6	14	2	4		
放射性物質検査 (NaIシンチレーションスペクトロメータ※①)	検査数	米	野菜	果物	牛乳	鶏卵	水産	冷蔵日記	飲料	検査の結果、全て検出下限値(20Bq/kg)以下でした。
	66	12	13	21	10	6	1	2	1	
放射性物質検査 (NaIシンチレーションサーベイメータ※②)	検査数	野菜	果物	きのこ	検査の結果、全てバックグラウンドとの差異が ※③3kcps(キロ・カウント・パー・セカンド)以内となりました。					
	15	9	4	2						

※①NaI(エヌイーアイ)シンチレーションスペクトロメータ(源蔵体(しゃへいたい)付検出器で核種を特定できるもの:ヨウ素131、セシウム134、セシウム137を測定)
※②NaIシンチレーションサーベイメータ(源蔵体無しを持ち運びできる機器:ガンマ線総量を測定)
※③kcps(キロ・カウント・パー・セカンド):1秒間に対象となるものから何

回放射性物質が放出されているか測定するものです。奈良県行政と同様にバックグラウンド(放射線測定の際の測定対象以外からの放射線宇宙線や天然の放射性物質に起因する)との差異を3以内としました。NaIシンチレーションサーベイメータではガンマ線総量を測定し、検出が疑われる場合は、NaIシンチレーションスペクトロメータで確認検査を行うこととしています。

